

「東京砂漠」を Wikipedia で調べると、4つの意味が記されていました。

- (1) 東京都に存在する日本の砂漠（表砂漠、裏砂漠、奥山砂漠）のこと → 三原山
- (2) 1964年（昭和39年）に東京都で発生した大渇水の通称 ⇒時→東京大渇水
- (3) 内山田洋とクール・ファイブの1976年（昭和51年）のシングル曲 → 東京砂漠（曲）
- (4) DJ OASISの2001年（平成13年）のファーストアルバム ⇒東京砂漠（アルバム）

(1)と(3)は知っていましたが、(2)と(4)は知りませんでした。特に私が生まれた年（昭和39年）に東京で大渇水があったというのは驚きです。しかし、今日の写真の「東京砂漠」は上記の(1)～(4)のどれにも該当しません。

今日の都内は「微粒子のトリプルパンチ」でした。その3種類の微粒子とは「スギ花粉」「ヒノキ花粉」それに「黄砂」です。特に黄砂は、数日前から天気予報で「3月26日が最も強い黄砂になり、交通機関に影響が出る可能性がある」と報じられていました。その通りになったと思います。

私は大学の施設課に、大学で一番眺望の良い文教育学部屋上の鍵を借りて、午前中、昼、夕方の3回、黄砂の飛来状況を観察しました。昼過ぎが最も飛来が激しく、スカイツリーはほぼ見えず、新宿や赤坂方面の高層ビルも霞んでほとんど見えませんでした。すぐ近くの池袋サンシャイン60ですら、やや霞んでいました。私が知る限り、最強の黄砂だったと思います。

黄砂の飛来源の一つは、中国の「ゴビ砂漠」だということです。中国では砂漠の砂が都市を襲う現象を「砂塵暴（さじんぼう）」と呼ぶそうです。日本まではさすがに砂粒は飛んで来ませんが、砂漠から飛来した固形物のうち、非常に直径の小さな微粒子が飛来しているのです。そういう意味では、今日の東京はまさに「東京砂漠」でした。

(2025年3月下旬／お茶の水女子大学構内より)

